

新原・奴山古墳群

土や岩の盛り土の下にある大きな墓・古墳の造営は、有史以前のヨーロッパやアジアでは一般的でしたが、日本では3世紀中頃から造られるようになりました。天皇や要人の埋葬用の土手を造る伝統は古代中国から朝鮮半島を経由して日本に伝わりました。これらのうち約16万基が列島全域で造営されたと考えられています。大和時代(300-710年)には、天皇のみならず豪族の長のためにも埋葬用の土手が造営されました。沖ノ島で発見されたものと同様に、彼らは貴重な品々とともに埋葬されました。地域の海路を司り、大和朝廷との結びつきが強かった宗像氏のために新原古墳が造営される頃には既にこの風習は定着していました。

これらの古墳についてさらに詳しく知るには、iTunes と Google Play で入手できる専用AR(拡張現実)アプリ・沖ノ島を探そう！をダウンロードしてください。